

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社 明泰社
施設名	とびばこ舎保育園
報告者（役職）	高山 和也（園長）
住所・連絡先	埼玉県越谷市レイクタウン2丁目28番14号
	☎ 048-987-1150
	E-mail takayama@meitaisha.com

○タイトル（保育計画）

遊びながら発達支援・療育も出来る7つのコーナー保育

○主な助成備品

教材セット（円柱差し、ボール落とし、はたおり機、てんびん、ドロッピングパズル）、ホワイトボード、おつきさまの隠れ家、こどもキッチン、アトリエ棚、療育遊具セット（トランポリン、セラピースウィング）、棚パーテーション、図鑑セット、言葉カード・絵合わせカードセット、感覚認識教材セット（嗅覚筒、温覚板、触覚箱）

1. 保育計画策定の目的

とびばこ舎保育園は、令和元年11月に開園した、3ヵ月から2歳児までを対象とした企業主導型保育園です。当園は、保育を必要とする全ての方を対象に、今日までの発達支援・療育を生かした保育を行っています。当園関連の発達支援施設「とびばこ舎」(<http://www.tobibako.center/>)から、遊びを出発点とした療育、子ども自身が楽しみながら発達を促す「保育プログラム」を行っています。子ども自身が「楽しそう!」と感じ、新しいことにチャレンジすることを大切にし、視能訓練士など医療スタッフの視点も取り入れ、何気ない遊びの中にも発達の芽を育てています。一人ひとりの子ども達の良さを伸ばし、子どもの「やらない」「できない」ことの背景に目に向けて一緒に考える保育を日々行なっています。

その中で、簡単な指示が上手く理解出来ず、衝動的に走り出しお友達を押し倒してしまう子どもの姿や、保育スペースに仕切りが無い為中々集中出来ず、一人になる空間も無いことから落ち着けない子どもの姿がありました。

今回、子どもの発達に合わせたコーナー保育の導入を考え、それぞれの興味・関心、成長を促し、保育者の援助が必要な子どもも安心して過ごし、保育者が支援できる環境を整えたいと思い備品の策定等を行いました。

2. 具体的な実施内容

<7つのコーナー>

① 指先を使って集中したり遊んだりできるコーナー

【購入品：教材セット（円柱差し、ボール落とし、はたおり機、てんびん、ドロッピングパズル）】

指先を動かす遊びは、子どもの脳の発達に良い影響を与えます。指先を使うことで神経が発達していき、細かな動きも出来るようになっていきます。ボール落としや円柱差し・ドロッピングパズルは、椅子に座り落ち着いた環境で行い、形の異なる物を同じ形や大きさの場所に入れる事で指先の細かな動きに加え考える力（思考力）が育ちます。

② ひとりで安心して気持ちを落ち着かせられるコーナー

【購入品：おつきさまの隠れ家】

保育中にヒートアップしてしまった子ども（癇癢等を起こしてしまった子ども）を1人にする事で心を落ち着かせ、クールダウンが出来るようにする為のコーナーで、クールダウン後に再度活動に参加・再挑戦出来るようにします。その際、子ども達には「先生と一緒に頑張ってみようか」と声を掛け、活動への意欲が出る声掛けを心掛けて行っています。



③ お友達とコミュニケーションを取りながらごっこ遊びを楽しめるコーナー

【購入品：こどもキッチン】

子ども達のイメージが膨らみ、遊びに直結しやすく一人でも落ち着いて遊べるようにこどもキッチンを保育室内に配置しました。また、ままごとコーナーに人形やエプロン・バッグ等の玩具も併せて配置する事で、子ども達が日々お店屋さんをイメージして「いらっしゃいませ」「何にしますか？」「これください」や、家庭での父親や母親の真似（子どものお世話）をする等、楽しむ姿が多く見られました。また、朝や夕方など異年齢での交流の機会を増やす場としても、遊びの幅に広がりが持てるよう工夫を行いました。



④ 好きな材料を使って製作を楽しめるアトリエコーナー

○購入品：アトリエ棚

日々の製作活動に加え、子ども達が自由にリボンやモール、折り紙や廃材などを選び遊べるようにアトリエ棚を配置しました。製作活動やアートを通して、指先を使ったり、創造力を膨らませて楽しんでいます。また子ども同士や、子どもと保育者との会話も広がり、子ども達から「これやりたい」と思いを表現する事も出来るようになりました。



⑤ 心身ともに成長を促す遊具コーナー

○購入品：療育遊具セット（トランポリン、セラピースウィング）

布に包まれ揺れるハンモックや、全身を使い跳ぶトランポリンで感覚統合を促します。トランポリンは身体を十分に動かし、全身運動、足腰を鍛えて強い身体を作り、ハンモックは落ち着く布に包まれながら揺れることで和らぎを感じることが出来ます。また、ハンモックやトランポリンを行う際に「順番を待つ力」も同時に養われます。



⑥ 様々な世界・ことばに出会える図鑑・カードコーナー

○購入品：小学館図鑑セット・言葉カード・絵合わせカードセット

日々の保育の中で、子ども達が「目で見える物」や「手で触る物」は沢山あり、そこから言葉を覚える場面は数多くあります。散歩に出掛けた時など、「ブーブーは車だね。白い車」「ネコちゃんはニャンニャンだね」など、保育者も「子どもの言葉の獲得」に日々援助を注いでいます。その中で、子ども達が「これって何て言う名前なの？」と言う事・思う事があった場合、保育者が正解を淡々と教えるのではなく、図鑑や絵合わせカード等を一緒に使う事で「これって〇〇っていう名前なんだね」と子ども達が自主的に学ぶ事が出来、同時に言葉の獲得も行う事が出来ます。

また、図鑑を読む事で知識量も増え沢山の物事を覚える事も出来ます。

⑦ 乳児オンリーコーナー

○購入品：パーテーション

安心して乳児が過ごし、伝え歩きや掴まり立ち・歩行の練習がのびのび出来るように配置しました。パーテーションで仕切られた中で玩具を使い、落ち着いた環境でゆったりと遊ぶ事も出来ます。



3. その成果と評価

子ども達のイメージがよりリアルに再現されるように、こどもキッチンやままごとに関する玩具を提供することで、今までは個々で遊んでいたままごとから集団で行うごっこ遊びへと発展し、子どもが集中し落ち着いて遊べるようになりました。

ままごと遊びでは、沢山の玩具を用意する事で「今日はこれ使う」「先生今日は〇〇作るからね」と子ども達のイメージがより鮮明になり、子ども同士でも「これ終わったら貸してね」「良いよ。待っててね」など言葉でのやり取りが生まれました。

2歳児クラスの子ども達が1歳児クラスの子どもに「これ使う？」と気持ちの代弁を行ったり、「相手を思いやる気持ち」や保育理念にもある「一緒に遊び合う」といった事も沢山増えました。

さらに、一人で集中できる空間（おつきさまの隠れ家）を準備したことで、集団での行動が難しくなった際に、少しクールダウンをさせてあげてから、またみんなと遊べるようになるようになったことは保育としても有効であったかと思えます。

また、図鑑や絵合わせカードでは今まで「これどこ？」と聞いて保育者と一緒に遊んでいた子どもが、保育者の「〇〇どこにあるかな？」という声掛けに自分で探し「あったよ、〇〇だよ」と物の名前も覚え自主的に遊ぶ姿が見られるようになりました。散歩の際、名前の分からない動植物があった時、「保育園の図鑑で調べてみようよ」と子ども達から声が出るようになりました。

4. 今後の課題と展望

今後も、子ども達の「やらない」「できない」事の背景に目を向け、一緒に考えることで、発達支援を行いながら、子ども達が自主的に遊び込める環境や集中し落ち着いて遊べる環境を目指して保育室のレイアウトや玩具の種類や数を日々変えていこうと思っています。そうすることで、異年齢で互いに認め合い、刺激し合う事が出来るようになり、「言葉でのやり取り」「相手を思いやる気持ち」を養っていけるようになると思っています。

当園では子ども達一人ひとりの良いところを伸ばし、苦手な部分を1つでも無くし、毎日の登園するときに「今日はどんな楽しいことが待っているのだろう！」と思ってもらえる園を目指し、日々保育実践に取り組んでいきます。

以上